

「教育と税金」

富山県立富山中部高等学校一年 徳永 貴久代

私たちに一番身近な場所と言え、学校だ。私が高校に入って最初に驚いたのは、教科書の値段だ。今までの義務教育では、教育書は税金でまかなわれていたため、何がどのくらいの値段なのか深く考えたことがなかった。調べてみると、日本の教育には、多くの税金が使われていることが分かった。税金の中で、教育費、「文教及び科学振興費」と呼ばれるものに使われるお金は、年間五兆円超だ。義務教育だけでなく、高校生の就学支援、大学や私立学校の運営費、科学技術の振興などに使われている。

私が小学校に入った時、たくさんの教科書が机に積まれているのを見て、学校生活にとってもワクワクしたのを覚えている。これらの教科書がすべて無料で、税金でまかなわれていると知った時、日本はなんて凄い国なのだと感動した。

今、高校生になり、さらに勉強が難しくなり、もっと分かるようになりたいという私の意欲も上がった。そんな私にとって、学校や教科書、参考書は勉強になくてはならないものだ。学ぶためには、どうしてもお金が必要だということを実感している。これらにかかる金を知る度に、もっと教材を大切に扱って、自分の勉強に最大限生かしたいと思う。私が今、自由に学んでいるのは、教育を支えている税金のおかげだ。

私は、税金は子供たちの「学びたい」を尊重してくれるものであってほしいと思う。様々な学習から広い視野を得た子供たちがそれぞれの分野で活躍する。日本の子供たちから将来世界を救う発明が生まれるだろう。多くの人を笑顔に幸せにできるだろう。教育は大きな可能性を秘めていると思う。今、その成果を見ることはできなくても、子供たちの「学びたい」が将来の日本に大きくつながっている。

今、日本では、少子高齢化が進み、若者の税金の負担が今後さらに増えていくと予想されている。子供が減り、教育にかかる税金も少なくなるだろう。しかし、将来を担う子供たちが学びたいことを諦めることなく、勉強ができるように国が教育をしっかり支えてほしいと思う。私も、大人になったら、日本の未来のために、税金をしっかり納めようと思った。